



ITbM/GTR コンソーシアム 入会のご案内

ホームページ : <https://itbm-consortium.jp/>

2020年4月1日

ITbM/GTR コンソーシアム事務局

設立趣旨およびコンソーシアムの概要

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）は、産学の会員機関が組織の壁を超えて集い、「分子」を鍵とする新たな価値の共創に取り組むオープンイノベーションの場として、2018年5月にITbMコンソーシアムを設立しました。

その後、2018年秋にITbMを核とする新たな大学院プログラムとしてトランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム（GTR）が発足しました。これを受け、ITbMのみならずGTRに参画する関連部局との産学連携の促進、および研究を現場で担うGTR大学院生の育成を活動内容に加え、2020年4月に名称を「ITbM/GTRコンソーシアム」へと変更してリニューアルすることとなりました。<※ITbMおよびGTRの概要については最後のページを御覧ください>

ITbM/GTRコンソーシアムの概要ならびに目的

大学の研究成果を社会実装につなげるには、産業界の皆様との連携が極めて重要です。しかし、大学が保有する成果を産業界の皆様にお伝えする機会は十分でなく、どんな研究が行われているかよく知らない、という声を企業の方から耳にします。また従来の産学連携共同研究は、企業の特定の部署と研究者が1対1で進める小規模なものがほとんどで、成果の社会実装には十分でないケースも多く見られます。

これらの課題を解決すべく、「ITbM/GTRコンソーシアム」を設置しました。本コンソーシアムでは、ITbMおよびGTRが取り組んでいる分野融合研究の様々な成果を会員企業の皆様に紹介し、産学連携の機会を提供するとともに、会員の皆様からは、企業や社会が抱えるニーズをお聞かせいただき、ITbM/GTRの研究者と会員企業の研究者が共同研究の可能性について直接議論する場を会員の皆様と一緒に作り上げていきたいと考えています。

これらの活動を通じ、異分野融合研究を軸とした産官学連携により、社会にインパクトを与えるサイエンスやテクノロジーを生み出し、現代社会が直面する重要課題の解決に向けたイノベーションを創出することを目指します。また同時に、産学連携研究などを通じて、実際にITbMやGTRで融合研究に取り組んでいる優秀なGTR大学院生の育成にも貢献したいと考えています。

ITbM/GTRコンソーシアムのスキーム

フォーラムでの情報交換からのシームレスな協業へ

ITbM/GTRコンソーシアムは、ITbMおよびGTRの最新の研究成果紹介、ならびに会員企業による企業紹介やニーズの紹介を行うワークショップ（非秘密情報に限る）を核として、1)メンバー間の情報交換を行うフォーラム活動、2)続くクローズド協議での具体的な協業企画の二つの活動を行います。実際の協業は、企業と名古屋大学間の個別の契約に基づいて実施します。



ITbM/GTR コンソーシアムに参加するメリット

ITbM/GTR のサイエンス・テクノロジーおよび研究者へのアクセス

年2回のフォーラム開催を通じ、ITbM および GTR の研究者が取り組むユニークな融合研究成果にアクセスでき、会員企業の皆様にはニーズ紹介をいただく機会を設けます。また随時、研究者との直接の議論の機会を提供します。フォーラム以外にも、ITbM/GTR に所属する 120 以上の研究室を参加対象として融合研究のための議論を行う GTR リトリート研修（6月）、GTR シーズセミナー（11月）、GTR 成果報告会（1月）にご参加いただくことができ、研究者や大学院生との交流の機会を通じて共同研究へ発展させる機会を提供します。

チーム型共同研究の立案と実施

ITbM/GTR では、1つの研究テーマに複数の研究分野の研究者が参画し、グループや分野の枠を超えた融合研究を推進しています。会員企業の皆様との議論を通じて、最適なメンバーで構成される ITbM/GTR 横断的なチーム組成を提案することが可能です。

企画調整・リエゾン機能の提供

ITbM の戦略企画ディビジョンが企業—ITbM/GTR 研究者—名古屋大学本部間の橋渡し役となります。研究課題と企業様のニーズに適した協業スキームの提案から、研究プロジェクト内容の企画、各種契約の折衝窓口、さらには共同研究の進捗のモニタリングを行い、スムーズかつ実効性の高い協業を実現します。

優秀な博士人材との出会いの場の提供

GTR プログラムで実施される上記の成果報告会等では、ポスターセッションなどの機会を通じて直接 GTR 大学院生と交流いただけます。また、GTR は企業との連携を推奨しており、研究テーマによっては GTR のダブルメンターとして参画いただくことも可能で、企業ニーズにマッチした研究テーマの発見につながることを期待されます。また企業会員の方が GTR サポーター企業に登録（無料）いただくと、企業向けに公開を希望する GTR 大学院生の活動報告書を閲覧することもでき、優秀な博士人材と出会う機会が増えるとともに、学生のキャリアパス支援にも繋がると考えております。

将来の展望

技術開発コンソーシアムへの発展

これまで ITbM/GTR コンソーシアムは、協業機会を創出する会員制フォーラム活動から協業企画へ発展させる活動が中心ですが、今後のさらなる発展に向けて、要望があれば特定の研究テーマの社会実装に向け、複数の会員企業と ITbM/GTR 研究者でチームを組み、組織対組織の研究開発を実施する技術開発コンソーシアムに活動の幅を拡大することも視野に入れております。

入会手続き

ITbM/GTR コンソーシアムの趣旨にご賛同いただけましたら、別紙の入会申込書にご記入いただき、次ページに記載の「申込書送付先」まで E-mail、郵送、または FAX にてお送りください。ITbM/GTR コンソーシアム規約もあわせてご確認ください。ご不明の点がございましたらお気軽にご連絡ください。

- ◆ 法人会員 年会費： 1口 30万円
- ◆ ワークショップ： 春・秋の年2回開催。会員企業に所属する方は皆様無料で参加いただけます。（ワークショップ後の交流会費は別途申し受けます）

コンソーシアム運営組織・連絡先

◆ 役員

代表	伊丹 健一郎	(ITbM 拠点長・教授)
副代表	山口 茂弘	(ITbM 副拠点長・教授・GTR プログラムコーディネーター)
副代表	松本 剛	(ITbM 事務部門長・特任教授)
事務局長	松島 令子	(ITbM 事務部門・特任講師)
事務局長代行	三浦 亜季	(GTR 特任助教)

◆ 運営事務局は名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所内に設置しています。

【申込書送付先・お問い合わせ先】

ITbM/GTR コンソーシアム事務局 (<https://itbm-consortium.jp/>)

TEL: 052-747-6970 / FAX: 052-789-2497

E-mail: itbm-consortium.admin@itbm.nagoya-u.ac.jp

住所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所内



トランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM)

トランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM) は、文部科学省・世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) に採択され、2013 年に名古屋大学に設置された学際的研究拠点です。既存の学科や研究室の壁を取り払い、ひとつの大きな空間で研究を行う Mix ラボ/Mix オフィスを設置し、合成化学、植物科学、動物科学、理論科学の融合によって、生命現象を「知る」「視る」「動かす」分子の創出を進めています。そして学際領域で新たな学問を切り拓き、得られた成果を通じて食糧、環境、創薬・医療、バイオマス、新規材料などの幅広い分野において大きな社会的波及効果をもたらす「トランスフォーマティブ生命分子」の創出を目指します。フラッグシップ研究領域として「植物ケミカルバイオロジー」、「ケミカルクロノバイオロジー」、「化学主導型バイオイメージング」を掲げ、例えばアフリカの農業生産に甚大な損害を与えている寄生植物ストライガを駆除する分子の開発などを進めています。主な研究成果や論文等については、下記のウェブサイトをご参照ください。

<http://www.itbm.nagoya-u.ac.jp/index-ja.php>



トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム (GTR)

文部科学省が新たに創設した「卓越大学院プログラム」の支援により、ITbM を核とするトランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム (GTR) が 2018 年に発足しました。ITbM の融合研究コンセプトを関連部局の研究や大学院教育に波及させるべく、理学研究科 (物質理学専攻-化学系、生命理学専攻)、工学研究科 (有機・高分子化学専攻、応用物質化学専攻、生命分子工学専攻)、生命農学研究科、創薬科学研究科から 120 以上の研究室が加わっています。5 年一貫の博士人材育成プログラムで、毎年 30 名程度の大学院生が GTR に選抜され、既存の研究科の枠を超えた連携や ITbM のミックスラボコンセプトを取り入れたカリキュラムにより、高い専門性に基づく「こえる力」と異分野との融合を実現する「つなぐ力」をもとに「研究突破力」を養い、学术界のみならず、産業界でも活躍できる卓越した博士学生を育成します。GTR の詳細については下記のウェブサイトをご確認ください。

<http://www.itbm.nagoya-u.ac.jp/gtr/>

